

特集

行田蓮(古代蓮)

わたしたち
— 行田人の夏を鮮やかに彩る —

市の“天然記念物”に指定されている行田蓮(古代蓮)。この蓮は花弁が少ない原始的な形態を持ち、1,400年～3,000年前の蓮であると言われています。

かつて小針地区周辺には沼地・湿地が広がり、昭和初期頃は沼地に蓮が咲いていました。しかしながら、化学肥料や農薬の普及に伴い急速に減少し、枯死してしまいました。

その後、昭和46(1971)年に小針クリーンセンターの造成工事により、地中深くに眠っていた蓮の実が静かに目覚めました。

2年後の昭和48(1973)年。造成工事の掘削により水が溜まってできた池の水面に、多くの丸い葉が浮いているのが見つかりました。

そして、同年7月13日、ついに長い眠りから覚めた古代の蓮が美しいピンクの花を咲かせました。

現在、行田蓮が発見された自生地に立ち入ることはできませんが、自生地から移植した行田蓮を古代蓮の里で楽しむことができます。

行田蓮が見頃を迎えた今。千年以上の時を経て、なお私たちの心を魅了するその美しい蓮の花を鑑賞しにお出掛けしてみませんか。

蓮の花言葉

清らかな心、神聖、沈着、休養、
雄弁、離れゆく愛、救済

行田蓮(古代蓮)

分類:ハス科ハス属
花期:6月中旬～8月上旬
最適な鑑賞時間:午前7時～9時ごろ
特徴:花びらは17～18枚前後で、やや濃い紅色をしている